

解答

問一 仕事を見つけれず、がっかりした気持ち。

問二 食事が足りず、もっと食べたいと母をこまらせる正彦とくらべ、何もいわない自分は「見本」だと母にほめられてしまい、また、母をこれ以上こまらせたくないという気持ちもあり、自分ももっと食べたいのをがまんしている。問三 むこうのすみで白米のごはんを食べている人は、それだけで自分でも知らないうちに、食べられないということ

を他人に思い知らせているということ。

問四 市場にいた男にくさりかけただいこんをひろう行為をばかにされ、くやしくてみじめな気持ち。

問五 行商をしたり、ものと食べ物を交換したり、野菜くずをひろったりしながら、子どもたちに食べさせるため、たくましく生きていこうとしている。

問二 残飯養豚を

問二 (1) 手間をかけずに、効率よく肉質の安定した豚を生産することができる点。

(2) 世界では飢えている人が八億人もいるのに、麦、トウモロコシなどの人間の食料を飼料として豚に食べさせている点。

問三 (1) 人間の残飯を豚に食べさせ、その豚の肉を人間が食べ、またそこで出た残飯を豚の飼料とするような、資源をリサイクルし有効利用する社会。

(2) ごみとして出される残飯を税金を使って焼却するような無駄をなくすることができるという長所。

問三 (1) 飛来 (2) 石火 (3) 潮 (4) 使節 (5) 意外

解説

問五 敗戦後、子どもをかかえながら、「わたし」が行商の仕事をしたり、モノと食べ物を交換したり、野菜くずをひろったりしながら、何とか生きていこうとしている様子が描かれています。みじめな思いをしても、こどもたちの喜ぶ姿になぐさめられ、たくましく生きる母の生きる姿をまとめましょう。

問二 (2) 他には、配合飼料は輸入にたよっており、日本の食料自給率を悪化させている点、など。
問三 (2) 他には、麦やトウモロコシなど人間の食料を家畜の飼料ではなく、飢えている人々の食料にまわせる長所、など。